



本日の
プログラム

(夜間例会) 新年親睦家族会

親睦活動委員会 18:00~(於)札幌パークホテル

職業奉仕とロータリーモットー

塚原房樹パストガバナー

ロータリーは一業一会員制で、会員はそれぞれ違う職業に従事しているのですから具体的な職業奉仕が一人一人全く違うのです。共通なのは、思いやりの心を持って奉仕をするので、実践する具体的な事は一人一人別なのです。

ロータリーの職業奉仕は判らないという会員が多いのですが、これは難しいから判らないのでは無くても余りに単純すぎて判らないのだと思うのです。では、その単純な職業奉仕がなぜ難しいと云うのでしょうか？

職業奉仕はロータリーの真髓であり、またロータリーの金看板ともいわれます。そこで職業奉仕委員長さんはこの単純な職業奉仕を難しく考えてしまう。職業倫理、奉仕哲学という言葉が頭をよぎります。『ロータリーの目的』は、奉仕の理念を育むことにあります。では、奉仕の心を育むためにはどうしたらいいのでしょうか。“玉磨かざれば光なし”という諺があります。どんな玉でも磨かなければ美しい光は出ない。人間もいくら素質があっても錬磨しなければ立派な人間とはならないという例えです。そのために『日本の職業奉仕』では、立派な職業人となるために、そのモデルとして、仏教の祖師、先人の訓えである歴史上の偉人の難解な言葉が次から次へと出てきます。二宮尊徳の報徳教、石田梅岩の商人道、渋沢栄一の“右手に算盤、左手に論語”・住友家の家訓、近江商人の“三方よし”など多くの教えが説かれます。

しかしこれらはあくまでも聖人君子だから、為せる業で、市井の職業人で、これを実践できる人は稀でしょう。

職業奉仕の難しさはここにあります。ただいくら先人の高邁な哲学を学んでも、普通の凡人である我々は、絵に描いた餅のようなものです。どんな言葉でも長い間使われていると手垢にまみれふやけてしまうものです。ロータリーの“奉仕”という言葉はその代表格といえます。また日本では奉仕という言葉は、主に年末大奉仕、奉仕の大バーゲンセール、奉仕品と

いう風に商店の売り出しの時によく聞かれます。英語の“Service”の訳語“奉仕”という言葉は日本語にはなじみません。“Service”の日本語訳を色々考えましたが、『親身になる』こと。これが“Service”の日本語訳として一番ぴったり合うように思います。例えば、社会奉仕とは“Community Service”の訳語ですが、社会奉仕というと何か立場の上のものが、下のものに施してやる・恵んでやるというようなニュアンスがぬぐえません。社会奉仕とは『良き市民たれ』ということで、本来は自分の住んでいる市や町に『親身になる』ことでありましょう。

今、奉仕とは“親身になること”といいましたが、それなら職業奉仕とは自分の商売に“親身になる”こと。これが職業奉仕のすべてです。仕事をするとき職業奉仕などという言葉が頭の中をうろついているようではまだ本物ではありません。『自分の仕事に親身になること』という風に職業奉仕をシンプルに考えてみてはいかがでしょうか。

ロータリーの職業奉仕がなぜ大切なのでしょうか。仕事をするとき職業奉仕を常に心の中に置いておくと、無限に地獄に落ちないで済むということです。職業奉仕の究極の目的は自己滅却の奉仕“Service, not self”のことと云えます。エゴの否定はロータリアンに課せられた永遠の課題です。

今の自分にはとてもロータリーの唱える自己滅却の奉仕は無理だが、自分はその理想にいつか近づき、その理想を実現しなければならない。大切なことは、ロータリアンは常に理想と現実の距離を測ることにより、無限に地獄に落ちないで済むということです。

